

都市規模と都市イメージについての解析

岩手大学 正会員 安藤 昭
岩手大学 正会員 赤谷 隆一
岩手大学 学生員 ○高橋 秀典

1. 研究の目的

本研究は、今後ますます重視されるであろう個性豊かな都市環境づくりと深くかかわる都市イメージについて都市規模に着目し、実際の調査にもとづいて比較分析を行なったものである。都市のイメージは、都市の成長発展の程度に支配されると考えられる。そこで、岩手県全域にわたって地域構造の解析を行ない、これにより、地方中核都市の盛岡市、衛星的町村の紫波町、停滞的過疎町村の大迫町を対象地域として選出した。

2. 調査地の概要

- ・盛岡市：岩手県の県庁所在地。南流する北上川と中津川、粟石川の合流する河岸段丘上に城下町として発展した。現在、行政をはじめ、経済、学術、文化の中心である。面積399km²、人口23万4千人。
- ・紫波町：盛岡市の衛星的町村で、盛岡市の南方に位置し、町域は北上川の両岸にまたがっている。陸羽街道沿いの宿場町として発展した。現在は、水田米作が盛んである。面積238km²、人口2万8千人。
- ・大迫町：岩手県のほぼ中央、北上山地のふもと、柳川流域に位置する。早池峰山のふもとの自然林と良質の南部タバコ、ブドウ栽培と酪農が盛んである。面積246km²、人口8千人。

3. 調査の概要

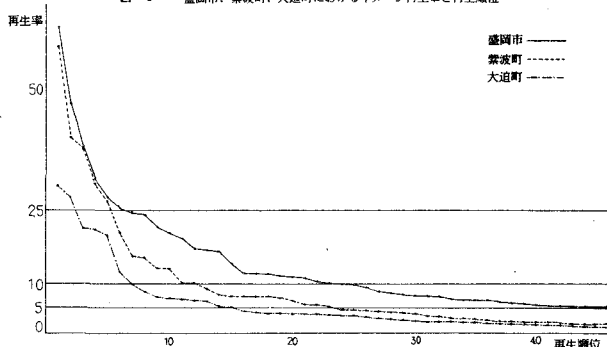
調査法は、自記言語イメージ再生法を用いた。すなわち、それぞれの市町の景観に対し、Ⅰ-(1)〇〇市町および〇〇市町周辺で好きな「ところ」または景色(——から見た——)は何ですか。(2)(1)であげられた中で最近10年間で悪くなったと言える景観は何ですか。(3)(1)であげられた中で最近10年間で良くなったと言える景観は何ですか。(4)(1)であげられた中で最近10年間で変わらない景観は何ですか。Ⅱ-(1)〇〇市町および〇〇市町周辺の景観で改善してほしい「ところ」または景色は何ですか。という質問をし、思いつく順序にできるだけたくさん書いてもらったものである。被調査者は、それぞれの市町に在住する18才以上の男女であり、サンプル数は盛岡市605人、紫波町592人、大迫町642人である。

4. 調査結果および比較分析

1) イメージ再生された景観に対する評価

イメージ再生された要素の総数は、盛岡市685個、紫波町569個、大迫町885個にもおよぶ。イメージ再生率を縦軸、再生順位を横軸にとってグラフ化した。再生率がほぼコンスタントな値を示すようになる5%までのグラフを図-1に示す。(紫波町、大迫町は盛岡市のグラフに合わせて便宜上46位までを示す。)それぞれ再生された要素は異なるものの、同様な対数曲線に近いグラフを描いており、共通にイメージされる要素は比較的少数に集中していることがわかる。そこで、再生率の集中する10%以上の要素に注目し、これらをパブリックキ・エレメントと呼ぶものとし、さらに再生率25%以上のものを景観特性を考える上で特に重要な核になる要素と考えてパブリ

図-1 盛岡市、紫波町、大迫町におけるイメージ再生率と再生順位



リックコア・エレメントと呼ぶものとする。次に10%以下の要素をその特性に注目し、5%までの要素をセミパブリック・エレメント、それ以下の要素をパーソナル・エレメントとする。ここでは、セミパブリック・エレメント以上について考察する。図-1からも明らかなように、パブリック、セミパブリック・エレメントの要素数は、盛岡市、紫波町、大迫町の順に多い。すなわち、これらの要素は重要な空間的、景観的特性を表しているものであり、都市規模が大きいほど空間的、景観的再生要素が多いということがわかる。(表-1)

表-1 イメージ再生された要素数

	コア・エレメント	キィ・エレメント	セミ・パブリック・エレメント
盛岡市	6	17	23
紫波町	5	7	11
大迫町	2	5	8

2) 景観の変化に対する評価分析

質問項目のI-2)3)4)について比率の差の検定を行ない、悪くなった景観、良くなった景観、変わらない景観を明らかにした。良くなったと言える要素では、公共施設をはじめとする新しくつくられたものがあげられている。これは、都市施設整備への評価の表れであると言え、特に盛岡市は、その要素数が多い。悪くなったと言える要素では、盛岡市は市内の中心部にある岩手公園から見た岩手山があげられ、これは、近年市街地に立ち並ぶビルの影響であると思われる。また、紫波町、大迫町では河川景観があげられている。変わらないと言える要素では、神社仏閣など歴史性のあるものが、盛岡市、紫波町であげられている。しかし、盛岡市では、これらが変わらないあるいは悪くなったというグループに入るものも多い。また、大迫町では、変わらないものとして自然資源のみ2要素あげられている。以上のことから、最も都市規模が大きい盛岡市では、公共施設をはじめとして新しいものが数多くつくられているが、それらに対する評価は3市町とも高い。また、都市規模の最も小さい大迫町において、河川景観をはじめとする自然景観に対するイメージ評価が低下してきている点注目される。

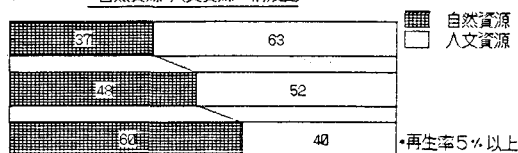
3) 改善したい景観に対する評価分析

3市町とも道路に関する要素が高比率で抽出されたが、盛岡市は、街路ばかりであるのに対し、紫波町では郊外のレクリエーション施設へ行くための道路があげられている。これは、都市施設整備に対する評価はされているものの、まだその整備が十分ではないためと思われる。その他では、盛岡市は、ビルや橋梁、さらに駅前の整備といった都市再開発に関するもの、紫波町は、街灯、下水道といった都市基盤施設に関するものが多く、また大迫町は、町内の河川、町並みといった都市構造の根本的な要素があげられ、それぞれ違った課題をかかえていると言える。

4) 景観要素の類型化 (図-2)

抽出された要素を類型化し一般化して人文資源、自然資源の分類を行なうと、この構成比は、盛岡市、紫波町、大迫町の順に人文資源の割合が多い。大迫町

図-2 自然資源・人文資源の構成比



5. まとめ

○都市規模が大きくなるにつれてイメージ再生率が高く、共通にイメージされる要素すなわちパブリック、セミパブリック・エレメントも多い。 ○都市規模の大きい方が公共施設を中心に新しくつくられたものの要素数は多いが、これらに対する評価は都市規模に関係なく高い。 ○都市規模の小さい方が河川をはじめとして、自然景観に対するイメージ評価が低下してきていると言える。 ○神社仏閣をはじめとする歴史性のあるものはイメージがそのまま保存されていると言えるが、都市規模が大きいほど評価イメージは低下してきている。 ○都市規模の大きい方が、景観の変化に対して鋭敏な反応を示し関心が高いと言える。 ○改善したいところは、都市規模が大きいものは地区の整備、開発、保全にかかわるものがあげられ、都市規模が小さくなるにつれて都市基盤施設となるもの、都市の基本構造をなすものがあげられている。 ○都市規模が大きくなるにつれてイメージ再生された人文資源の比率が高く、都市規模が小さくなるほど自然資源の比率が高い。